令和5年度　かほく市立外日角小学校　学校評価計画

重点目標	取組内容		主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	肯定的結果	達成度	結果の考察	今後の方針	学校関係者評価
1 確かな学力の育成と授業力向上	①	学習規律，基礎基本の定着・習熟を図る	学習指導部	教師や他の児童の話を最後まで聞こうとする姿勢の弱い児童が見られる。	【努力指標】 話す人の方を見て最後まで話を聞いている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	A+Bが80%未満の場合，取組の検討・改善をする。	87% (教)	B	教職員のA評価は、32%と高くない。	授業での「話す・聞く」ことの大切さや必要性をその都度指導し，個々への見取りや支援・手立てを，学年や低中高ブロックで共通理解し，取り組んでいく。	・中学校では、小学校ほどICTの活用が進んでいないが、小中連携の研修会を行っていると聞き安心した。中学校への引継ぎを確実にするとよい。 ・アンケートを毎年とっているが、学年の経年比較もあるとよいのではないか。ある学年が、年を追うごとにどのように変化しているか見る視点も大切だと思う。 ・読書の推進については、「読書ポスト」を設置し、児童が児童へ、先生が児童へ、児童が先生にお勧めの本を紹介するというのはどうか。
	②	「ねらいを達成する授業後半の深い学びを充実させる」ため授業力の向上を図る★	学習指導部	他の児童の考えを聞いて自分の考えを再考したり、考えを練り上げたりする力が弱い。自分の考えの変容を感じている児童も多くない。	【努力指標】 深めの発問（切り返しや問い返しの発問）の準備をして実践している。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	A+Bが80%未満の場合，取組の検討・改善をする。	90% (教) 92.4% (児)	A	児童「授業が分かりますか」のA評価が、昨年度前期より５%程度上がっている。 教職員の肯定的評価は高い。	ねらいを明確にもち，授業前半部分をコンパクトにし，まとめやふり返り（適応問題）等の後半部分が充実できるようにする。そのために，発問・教具・ICT等を吟味する教材研究の時間を確保する。	
	③	学習意欲が持続する指導の工夫を図る	学習指導部	「やってみたい」「考えたい」という学習意欲には個人差があり、授業後半まで意欲を持続できない児童もいる。また自分の考えをもつことが難しい児童も各クラスに若干名ずつみられる。	【成果指標】 解決したくなる課題設定の工夫や課題解決を見通すための手立てを行っている。	一日の授業で， A：３時限以上できている B：２時限以上できている C：１時限以上できている D：ほとんどできていない	A+Bが80%未満の場合，学年研やブロック研で取組を検討する。	100% (教)	A	教職員の肯定的評価は100%である。	学校研究に授業後半の充実について位置付けられているので、今後も学年研やブロック研を通して学習意欲が持続する工夫や手立てについて取り組み、普段の授業でも引き続き意識して行っていく。	
	④	家庭学習の定着・習慣化を図る	学習指導部	学年に応じた家庭学習の指導の継続により，宿題の提出率はよくなってきている。個別指導が必要な児童は複数いる。	【成果指標】 宿題の提出率が90%以上である。	A：９０%以上の児童ができる B：７０%以上の児童ができる C：５０%以上の児童ができる D：５０%未満の児童ができる	A+Bが70%未満の場合，取組の検討・改善をする	90% (教) 70.5% (児) 57% (保)	B	児童「自分で計画を立てて勉強しているか」のA評価が、昨年度前期より6%程度下がっている。保護者「子どもは、自分で計画を立てて勉強しているか」の肯定的評価も高くない。	「計画的に取り組む」ことが「順番を決めて家庭学習に取り組む」ことであることを保護者，児童，教職員が共通理解を再度図る。帰りの会などで，家庭学習に取り組む順番を決める機会を設けて，自分で順番を決めて，家ですぐに取り組めるようにする。	
	⑤	学習場面に応じた１人１台端末の有効的な活用に努める	学習指導部	授業のねらいを達成するための，ICT端末・機器の積極的な活用はできてきたので、効果的な活用を推し進めていく。	【努力指標】 クロムブックを使った効果的な活用を行っている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	A+Bが70%未満の場合，取組の検討・改善をする。	64% (教) 93.6% (児)	B	児童の肯定的評価が90%を超えている。教職員はICTを使用しているが、「効果的」使用という観点から、肯定的評価にはつながらなかった。	小中連携協議会で学んだ実践例を共有し，学年に応じて共通実践を行いながら，学習のねらいに応じたより効果的な使い方を研究していく。	
	⑥	学校で読書する習慣を身に付ける	学習指導部	低学年は，図書館に楽しんで通う姿が見られるが，高学年になると進んで読書をする児童が少なくなる傾向がある。	【成果指標】 週に１回図書館を利用する児童が80%以上である。	A：８０%以上の児童があてはまる B：７０%以上の児童があてはまる C：６０%以上の児童があてはまる D：５０%以上の児童があてはまる	A+Bが70%未満の場合，取組の検討・改善をする。	89% (教) 参考57.1% (児)	A	教職員の肯定的評価は高いが、児童の家庭での読書につながっていない。	週末に読書の宿題を出すようにしているので再度確認をする。 図書委員会のイベントを利用し，読書に親しむようにしたり，週に一度は，本を借りるように声かけをしたりする。	
2 自己有用感の育成といじめ・不登校・問題行動の未然防止・早期対応	①	気持ちのよい挨拶，時と場に応じた言葉遣いができる	生徒指導部	玄関での朝のあいさつは少しずつ元気になっているが、安全ボランティアや来校者へのあいさつを進んでできる児童が少ない。	【努力指標】 自分から進んであいさつをしている。	A：９０%以上いる B：８０%以上いる C：７０%以上いる D：７０%未満いる	A+Bが70%未満の場合，取組の検討・改善をする。	86.5% (児)	B	肯定的評価は昨年度前期と同様の結果である。	まずは教職員から進んであいさつをすることで、児童のモデルとなり校内でのあいさつを定着できるようにする。 校内でのあいさつの意識を高めることで、安全ボランティアや来校者など外部の方へのあいさつにつなげていく。	・運動会で、他学年と交流している場面を見かけて、ほのぼのとした気持ちになった。運動面だけでなく、係の仕事や応援など様々な場面でその子の頑張りを認めてあげてほしい。 ・「学校が楽しくない」と言う児童への声掛けや対応をきめ細やかに行っていくことが大切である。 ・学校に行きたくてもいけない子やその親が困っているという相談を受けることがある。今後もSCや各種機関の活用を進めていってほしい。 ・集中力がない子が増えてきたと感じる。周りの大人たちの声掛けで変わってくると思うので、いろいろ工夫しながらぜひ達成感を味わわせてほしい
	②	自己肯定感，自己有用感を高める★	生徒指導部	自己肯定感が低く，学校が楽しくない（C,D）と感じている児童が約11%いる。	【満足度指標】 児童が学校が楽しいと感じている。	「学校は楽しいですか（楽しいと言っている）」に対して，AもしくはBと答えた児童・保護者が A：９０%以上いる B：８５%以上いる C：７０%以上いる	B以下の場合，取組の検討・改善をする。	87.5% (児) 89.9% (保)	B	児童のA評価は前年度前期より7%上がっている。保護者の肯定的評価は昨年度前期と同様の結果である。	今後も、特別活動部とも連携しながら様々な場面で児童に任せる場面を作りながらその頑張りを認めていく。結果だけでなく過程を見とり温かい声かけをする。いいねカードも継続して活用していく。	
	③	「考え，議論する道徳」を意識した授業改善の工夫	学習指導部	学校行事や体験活動等との関連を図ったり、道徳の教科書をもとに、いしかわ版道徳教材やGTを活用したりして、個々の児童が、思いやりの心を持ったり、夢や目標を持ったりするように、共通実践を蓄積する必要がある。また、規範意識の向上も必要である。	【成果指標】 道徳授業の工夫をする。 ア　導入の工夫 イ　道徳の教科書、いしかわ道徳教材やGTの活用 ウ　中心発問の吟味 エ　道徳掲示の蓄積 オ　体験活動との連動	道徳の授業で A：３項目以上に取り組んだ B：２項目以上に取り組んだ C：１項目以上に取り組んだ D：取り組めなかった	A+Bが70%未満の場合、授業のあり方について検討・改善をする。	100% (教)	A	教職員の肯定的評価は100%である。	家庭や地域との連携を図るために、年に１度は、参観日に各学級で道徳の授業を公開したり、道徳便りで発信したりする。規範意識を向上させるために、生徒指導部とも連携していく。	
	④	児童の心身状態についての情報収集・共通理解★	生徒指導部	「いじめは絶対にいけない」と思っていない児童が3.6%いる。	【成果指標】 児童が「いじめはどんな理由があってもいけない」と感じている。	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して，Aと答えた児童が A：９５%以上いる B：９０%以上いる C：８０%以上いる D：８０%未満いる	B以下の場合，取組の検討・改善をする。	98.1% (児)	A	児童のA評価は昨年度前期より5%程度上がっており、C評価も2%程度下がっている。	肯定的評価が高まってきているが、まずは職員が「いじめはどんな理由があっても許されない」という意識で指導にあたる。児童の言動の裏にある思いに寄り添いながら、思いを「聴く」ことを大切にして指導にあたる。	
	⑤	特別支援教育校内委員会の機能化★	生徒指導部	個別に支援を必要としている児童割合が高い。	【努力指標】 児童理解の会や学年会，終礼等で，児童の実態把握や問題の早期対応に努めている。また，必要に応じて外部機関とも連携する。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	A+Bが80%未満の場合，取組の検討・改善をする。	100% (教)	A	教職員の肯定的評価は100%である。	今後も終礼での児童理解の時間確保やケース会議、保護者面談等の記録回覧を行い、速やかな共通理解を図る。また、外部機関との連携を積極的に行い、個々の児童に合った支援ができるようにする。	
	⑥	児童が主体的に活動できる場を設定すると共に，集団の中で協力する心や他を思いやる心を育てる	特別活動部	なかよしグループ活動には，楽しく参加しているが，協力し合ったり，助け合ったりする関係が十分にできているとは言えない。	【努力指標】 なかよしグループ活動に自分から進んで活動に参加し，楽しむことができる。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	A+Bが70%未満の場合，取組の検討・改善をする。	95.9% (児) 100% (教)	A	児童・教職員共に肯定的評価が９０%を超えている。	肯定的評価を更に高めるために、定期的に行うなかよし遊びだけでなく、なかよし掃除でも異学年との協力、助け合いを念頭に置き、継続的に認め価値づける声掛けを全教員で行うようにする。	

重点目標	具体的取組		主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	肯定的結果	達成度	結果の考察	今後の方針	学校関係者評価
3 児童の体力の向上と健康・安全教育の推進	①	「体力アップ１校１プラン」をもとに，全校で体力アップを図る「スポチャレいしかわ」の積極的な参加	特別活動部	休憩時間に体を動かしている児童は多いが，運動能力調査の結果に反映されるまでには至っていない。また，運動を好まない児童もいる。	【成果指標】 マラソンやなわとびチャレンジカード等に意欲的に取り組み，体力・運動能力の向上が見られる。	「進んで体を動かしていますか」に対して，AもしくはBと答えた児童が A：９０％以上いる B：７０％以上いる C：５０％以上いる D：５０％未満いる	A＋Bが70%未満の場合，取組の検討・改善をする。	92.9% (児) 100% (教)	A	児童・教職員共に肯定的評価が90%を超えている。	走り方や縄跳びの指導方法を，教職員で共有していく。今後マラソンチャレンジやなわとびチャレンジを実施していくなかで，児童一人一人が楽しく続けられるような方策を考えていく。	・交通ルールを守れない子を見かけることがある。「なぜ守るのか」を分からせる指導が必要である。自分のことじゃないと思っている子が多いと思うので、ポイントを決めて取り組んでほしい。 ・朝、登校を渋っている低学年の子を高学年女子が優しく励ましている場面を見た。素敵な姿だと思った。見守り隊の方々も、どの子が何時ごろ登校しているか把握しているようでありがたい。 ・核家族化が進み、新しい人もたくさん入ってくる土地柄なので、親同士もコミュニケーションが取りにくくなっている。地域でも、若い人や新しい人が集まる機会を地区で設けていくことが大事だと感じている。 ・民間でも働き方が問題になっている。精神疾患を患う人も身近にいる。先生方の状況は大丈夫なのか。提出書類や各種対応などで簡素化できるところから取り組んでほしい。 ・学校CNの活用がうまくいっておりうれしい限りである。今後も子ども達のためになる活動や地域と連携した事業を推進していってほしい。
	②	避難訓練実施を含め，危険予測能力，事故回避能力などを育成する	保健安全指導部	登校時の交差点の渡り方や下校時の道路の歩き方にまだまだ不安がみられる。	【成果指標】 交通ルールを守って道路を歩くことができる。また、非常時において避難の仕方が分かる。	「歩き方や自転車の乗り方に気を付けていますか（交通事故から身を守る習慣が身についている）」に対して，AもしくはBと答えた児童・保護者が A：９０％以上いる B：８０％以上いる C：７０％以上いる D：７０％未満いる	児童保護者評価ともにA＋Bが80%未満の場合，取組の検討・改善をする。	98.1% (児) 93.5% (保)	A	児童のＡ評価が昨年度前期より７％程度上がっているものの、保護者のＡ評価は昨年度前期より８％程度下がっている。	９０％は超えているが、実際に危ない場面に遭遇することもあるため、下校の様子を教員も見に行って、指導に生かすことも必要だと思われる。新聞の記事やテレビのニュースも取り上げながら指導を継続し、安全に対する意識を高め	
4 家庭・地域との連携	①	各種便りやホームページ等での情報発信の充実	情報担当	様子や取組を更新している学年と更新していない学年の差が大きい。	【成果指標】 定期的にホームページを更新する。	Ａ：毎週更新している Ｂ：隔週で更新している Ｃ：月1回で更新している Ｄ：一月以上更新していない	Ｃ以下の場合，取組の検討・改善をする。	64% (教) 94.5% (保)	B	教職員の肯定的評価は高くないが、保護者「学校だより・等で教育方針や学校・学級の様子が分かりやすく伝えられている」のＡ評価が６％程度上がっている。	学校の様子や取組を更新している学年としていない学年の差が依然として大きいため、定期的に行っている学年会で更新頻度を必ず振り返る。その後は週1回以上を目指して更新し、各学年、学級の様子をより高い頻度で伝えられるようにする。	
	②	保護者への「報・連・相」	管理職	学校生活で気になることや児童同士でのトラブルなどを保護者へ丁寧に連絡している。気になることは必ず保護者へ連絡することを継続する。	【努力指標】 児童の気になることに対して保護者への電話、面談、訪問など速やかな対応を行っている。	Ａ：よくあてはまる Ｂ：おおむねあてはまる Ｃ：どちらかといえばあてはまらない Ｄ：あてはまらない	A＋Bが90%未満の場合，取組の検討・改善をする。	100% (教)	A	教職員の肯定的評価は100%である。	児童の気になることに対して，保護者への対応は速やかに行っている場合がほとんどである。今後も生徒指導のさしすせそ（最悪を想定して、慎重に、素早く、誠実に、組織的に）に留意しながら組織的に対応していく。	
5 教職員の働き方改革と人材育成	①	教職員が担うべき業務に専念できる環境を確保 教材研究や学年会の時間を確保	管理職	超過勤務はやむをえないという意識から，ワークライフバランスや適正な勤務時間のさらなる意識向上が必要である。	【努力指標】 週２回以上１９時３０分までに退校している。	Ａ：よくあてはまる Ｂ：おおむねあてはまる Ｃ：どちらかといえばあてはまらない Ｄ：あてはまらない	Ｃ以下の場合，取組の検討・改善をする。	80% (教)	B	肯定的評価は80%である。	前期は，退校時刻を意識した職員が多かったが，それでも個人差は否めない。後期も，学校行事や教育活動における精選と見直しや学校CN・教育業務支援員の活用により，勤務時間の削減を目指していく。	
	②	研修の充実★ 若手主体で取り組む若プロ	教務部	担当としての研修会や郡市教育課程研修会の参加のみになっている教職員が少なくない。	【努力指標】 主体的に研修会に参加したり、月に１度は他の教師の授業を参観し意見交流をしたりする。	Ａ：よくできた Ｂ：おおむねできた Ｃ：どちらかといえばできない Ｄ：できない	A＋Bが80%未満の場合，取組の検討・改善をする。	95% (教)	A	肯定的評価は90%以上と高い。	学力向上部からの提案で、日常的に授業を相互参観している。参観後は、週案や学年会シートを活用して感想を交流することで、授業改善に努める教職員が増えている。今後は、若プロ研修が更に主体的な取組となるようにしてい	
6 カリキュラムマネジメント	①	学校ＣＮと連携し，教科や活動のねらいに沿った外部人材の活用を進めることで，効果的に学習を行う	教務部	学校ＣＮと連携し外部人材の活用し効果的に学習を行ことを継続していく。	【努力指標】 学校ＣＮと連携し，教科や活動のねらいに沿った外部人材の活用を進める	Ａ：よくできた Ｂ：おおむねできた Ｃ：どちらかといえばできない Ｄ：できない	A＋Bが80%未満の場合，取組の検討・改善をする。	95% (教)	A	肯定的評価は90%以上と高い。	年度当初に各学年の担任と学校CNで昨年度の実績を踏まえながら今年度の計画を立てたことで、効果的な学習となっている。今後も連携を密にし、学習を進めていく。	